

「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！

目次

- ・用語解説
「kWとkWhの違い」…………… P.1
- ・団体会員紹介
「環境ネットワークくまもと」…… P.2
- ・会員の声・こんなことができる…… P.3
- ・東本願寺と環境を考える市民プロジェクト・本の紹介・ボランティアの声…… P.4

温暖化防止

ストリート

街角

KIKO KITAZAKI

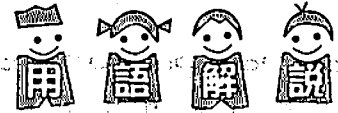
第8号

2004.7.1

気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

よく聞くけど

「ん？」何だったかなーっと思う



用語 : kWとkWhの違い

「1000kWの風力発電は年間175万kWh程度を発電し、これは年間の平均的な家庭の〇〇件分に相当し…」。新聞記事などでこのような表記をよく目にしますが、この「kW(キロワット)」と「kWh(キロワットアワー)」の違い、ごぞんじですか？

「kW」とは瞬時の発電電力を示し、「kWh」とは1時間あたりの発電電力量、もしくは1年間等の発電電力の積算値を示します。例えば、10kWの発電機を5時間使用した場合、10(kW)×5(h)=50kWhの発電量になります。風力発電や太陽光発電などの自然エネルギーの場合は、発電効率（風力発電なら20%程度、太陽光発電なら12%程度※）をかけ合わせる必要があります。

例えば、1000kWの風力発電の年間発電電力量は、

※日射量や風況によって変動します。

$1000(kW) \times 24(h) \times 365(日) \times 0.2 = 175.2万kWh$ となります。ちなみに、1MW(メガワット)=1000kW(キロワット)になり、上の例で言えば、175.2万kWh=1752MWhとなります。

電力消費の場合も同様で、消費電力100kWのテレビを3時間見れば、消費電力量は300kWhになります。

ここがポイント！

発電の場合

- ・「kW」は発電できる力のこと
- ・「kWh」は発電電力×時間

消費の場合

- ・「kW」は消費される電力の強さ
- ・「kWh」は消費電力×時間



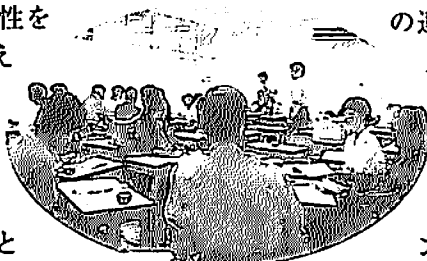
今回は、熊本市にある、「環境ネットワークくまもと」の紹介です。
事務局長の原さんから紹介していただきました。



原育美さん

設立から満10年を迎えた「かんくま」は、活動の総決算として、また、今後の方向性確認のため、昨年「持続可能なくまもと」提言づくりに着手。これは、多くの市民との協働作業で取り組むべき目標を明確にし、目指すべき地域の将来像を共有する作業でもある。

「水俣病」の苦い経験を通して熊本には比較的早い時期から環境問題に取り組む市民グループが生まれ、交流も活発化していた。熊本で1990年に市民主導で始まったアースデーの取り組みも、継続開催を通してグループ間や事業者、行政との連携を深め「協働」のあり方を学習する機会となった。1994年始め、地球規模で深刻化する環境問題に共同で立ち向かうネットワークをつくり、多くの市民が主体的に参加できる活動拠点をつくらうとの声が自然発生的に生まれ、数ヶ月にわたる話し合いが開始された。互いの独自性を尊重しながら脆弱な活動基盤を支えあい、環境情報の共有を図るゆるやかなネットワークとして、同年10月「環境ネットワークくまもと」が発足。今では団体40、個人200名に成長し、人々が「かんくま」と愛称で呼ぶまでに地域に浸透した。「かんくま」活動の特質は、必要に応じ他団体との多様な連携・プロジェクトに柔軟に対応できる体質であろう。



② 学習会の様子

かんくまには、「運営」、「情報・広報」、「学習・フィールドワーク」、「調査・研究・提案」と4つの委員会があり、活動方針の柱はパートナーシップの実践である。学習委員会は、自然観察会や教師のための体験型「連続環境講座」の企画や運営を担当し、講師は団体会員のメンバーが務める。情報・広報委員会は、会員団体の活動ニュースなども盛り込んだ年6回の通信発行に精力を注ぎ、HPを充実させ詳細な活動記録も公開している。

調査・研究・提案委員会の活動は多彩である。1994年に消費者団体とのプロジェクトチームで企業の環境対策と情報公開の促進を目的に店舗調査を実施。翌年九州初の地域版「グリーンコンシューマーガイドくまもと」を発行。エコ商品普及に求

められる消費者自身の意識・行動改革を促す活動として企業から歓迎された。その後も全国や九州の仲間と、数冊のガイドブックの発行に関わりグリーンコンシューマー（以下GC）普及に先鞭をつけた。GC活動によって環境施策促進を市民側から働きかけることの意義を認識し、九州版では包括的な自治体環境対策調査に取り組んだ。1997年、九州・山口GCチームで実施した人口5万人以上の自治体環境対策調査において、1995年に“CO₂ 20%削減”の数値目標を掲げ、総合第1位を獲得した熊本市に「環境首都賞」を授与。この活動は2000年発足した全国環境首都コンテストネットワークへの積極的な参画に繋がっていった。1997年の「列島縦横エコリレー」では九州地区実行委員会の事務局を務め、同年京都で開催された「全国NGO活動交流会」での活動報告を契機に気候ネットワークとの連携が始まり、翌年には常任運営委員に就任した。

1999年4月には、熊本市が掲げる“CO₂ 20%削減”を市民の力で達成させようと「温暖化防止くまもと市民会議」設立を期してシンポジウムを開催。「温暖化防止くまもと市民宣言」を採択し、6月に同会議を発足。1年後の市民提案「温暖化防止市民条例」制定を視野に月1回の学習会を開き80名の会員を得た。2000年春に素案が出来上がり議員立法による制定を目指した条例案は、議会の理解を得ることができず現在もまだ宙に浮いた状態である。一方この活動は、行政に市民活動への理解と信頼感を醸成し、熊本市は第2次環境総合計画策定に向けて市民会議（構成30名）を設置。ワークショップを経てまとめられた計画素案を受けた計画制定と同時に、市民・事業者・行政によるパートナーシップ型実行組織「エコパ」が発足した。かんくまのメンバーは、各WG活動の牽引役として活躍している。他、企業との連携で実現した地下水涵養事業、自然エネルギー普及プロジェクトなどの活動については是非URL：<http://www.kankuma.jp/>を参照していただきたい。

気候ネットワーク・団体会員紹介

やっと、会員になりました

峰 淳二さん (鹿児島県)

6月20日の市民シンポジウム参加の際、「あれ、まだ会員になってなかった？」と友人から言われました。気候ネットワークには知人も多く関わっていて、私自身も講師に招かれたこともあるのに、「会員になってほしい」と、誘われたこともなかったなあーと思いながら、暗れて会員になったわけです。私は、仕事でも市民活動でも自然エネルギーや省エネに関わっていても、地域で活動をしているせいか、政策提言活動をやっている環境NGOに対して気持ちでは支援しているものの、遠くから眺めているだけの状況なのです。

今回のシンポジウムの内容も刺激的で、有意義な議論に久しぶりに参加できて楽しかったけれど、これを私の住む地域で温暖化防止の活動をしている人たちが聞いても、理解するのは大変だろうなあーとも感じました。持続可能な社会を築くには市民が学び続けることに加え、政策決定プロセスへの市民参加には「力の分有」が欠かせないことも忘れてほしくないと思います。

地域レベルでの温暖化防止を進めていく上で、気候ネットワークの役割に大いに期待しています。

真鍋奈緒子 (大阪)

私の勤めている会社でも今年ISO14001を取得しましたが、環境問題に関する社員一人ひとりの意識はまだまだ低いと思います。まずこの認証を取得するに至ったのは得意先のグリーン調達への要求があったからで、そのためのマニュアルも得意先から教えてもらってるのが現状のようです。この認証のそもそもの狙いは自らの営業活動を環境問題の解決を図るような活動に結び付ける事ですが、ミッションがないままPDCAが空回りし、中身がないものになっているように感じます。

しかし、ISOの取得の際に外部審査で初めて会社の経営の在り方を問われ、いい刺激にはなったようです。本業の経営の在り方でさえしっかりしていないのに、そこに環境という概念を取り入れる事に戸惑いがあるようです。まるで国の縮図を見ているようです。



皆様の「意見・自由な」発言を募集しております。皆様の声を遠慮なくお寄せください。次回は、6月発行の「環境」の「2006年7月」掲載予定です。



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」でできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

今回のテーマは

「夏のエアコンの使い方 ~除湿機能は省エネ?~」

⊙ エアコンを利用している方必見!! 効率良く使う工夫をご紹介します!!

「省エネのために、除湿(ドライ)機能を使っている!」という方は多いのではないかと思います。果たして、これは本当に省エネになっているのでしょうか。

北原博幸氏(元エアコンメーカー勤務)は、「最近の省エネエアコンの場合、除湿機能は冷房機能よりかなり多くの電力を消費する」と指摘されています。

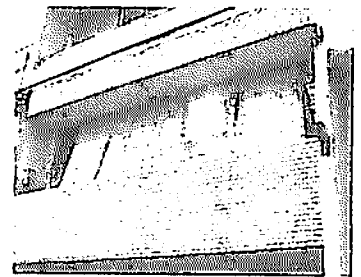
近年、より細かい制御を可能にできるインバーター化によって、室内機と室外機の温度差を小さくできるようになったことなどにより、冷房の大幅な省エネ化が進みました。

一方、除湿するためには、室内機側の熱交換器の温度を、一旦、水蒸気を取り除ける程度にまで下げる必要があります。このため、冷房時よりも多くの電力を消費してしまうわけです。

なお、北原氏は、冷房時に湿度が高くなりすぎるのを防ぐため、除湿機能も時折織り交ぜて使うことを提案されています。

エアコンを使うのであれば、こうした情報を活用し、少しでも効率良く使う工夫をしていきたいものです。

蛇足ながら、夏にはぜひ「すだれ」や「よしず」を使ってみてください。当センターも、先日、窓によしずをかけました。日々、その効果の大きさを実感しています。



⊙ センターにかけられたよしず

東本願寺と環境を考える市民プロジェクト 紹介



「東本願寺水道を歩こう」の様子

「お寺が環境問題に取り組むの!？」と思われた方は多いのではないのでしょうか。東本願寺（真宗大谷派）では2003年3月に開かれた世界水フォーラムをきっかけに、多数の市民、NGO・NPO、東本願寺の有志によって構成される「東本願寺と環境を考える市民プロジェクト」を設立（2004）し、継続的な活動を行っています。

同プロジェクトでは、これまでに「雨水タンクの設置式」、「本願寺水道を歩こう」、「ふるしきワークショップ」などの企画を行ってきました。この7月19日には、東本願寺・渉成園にて京都駅周辺に残る自然を見つめ直す「初夏の生き物観察会」を100万人のキャンドルナイトとあわせて開催しました。

当日は定員30名に対して60名もの参加があり、同プロジェクトスタッフは嬉しい悲鳴を上げることになりました。（気候ネットワークでもこの人気にあやかりたいものですね…。）

この市民プロジェクトには、気候ネットワークも協力しています。今後もイベント情報などを紹介していきますので、是非ご参加ください。



「ふるしきワークショップ」参加者の撮影

おすすめの本の紹介です。

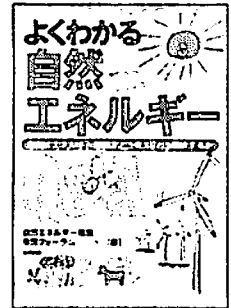
紹介者：清水玄太（自然エネルギー普及研究会）

本の紹介

『よくわかる自然エネルギーQ&A 市民はエネルギー問題をどう考え、どう解決するか』

編者：自然エネルギー推進市民フォーラム（REPP） 2002年8月30日 第1刷発行 合同出版

本書は、自然エネルギー全般に関しての入門書です。自然エネルギーの基礎知識・キーワードをわかりやすく解説するとともに、国、自治体、企業の現状や環境先進国のエネルギー政策、そしてこれから目指すべきエネルギーシフトのあり方などをQ&A形式で紹介しています。また、環境NGO/NPOのメンバーや多くの専門家が、市民の立場から執筆しており、非常にわかりやすい内容になっています。持続可能なエネルギー社会のつくり方の理解につながる貴重な一冊だと思います。



<本体1,500円+税、183ページ>

ボランティアの声



東京ボランティア 藤野健太郎さん

気候ネットワークでは
たくさんのボランティアが
一緒に活動しています。

そのボランティアからのコメント！

千葉大学4年の藤野です。1月からインターンとして東京事務所でお世話になっています。地球温暖化問題はもちろん、卒論のテーマである炭素税について勉強したく気候ネットワークの活動に参加し、勉強させてもらっています。審議会の傍聴に行ったり、勉強会の調整を行ったりと仕事は様々ですが、インターンをしていなかったらとても経験できない事をやらせていただき、自分にとってプラスになっていると思います。これからもよろしくお願いします。

編集後記

5月末、京都でも32度を越える日がありました。また6月21日に台風が上陸するという異常気象にみまわれています。

このような温暖化の兆候などもストリートに掲載していきます。みなさまからの情報をお待ちしています。その他に、スタッフの担当プロジェクト、研究会の様子などを伝えていき、ストリートの充実に取り組みたいと思います。ご意見、ご感想をお寄せください。

(マサル)



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表：浅岡美恵 / 副代表：須田春海 / 事務局長：田浦健明

URL : <http://www.jca.apc.org/kikonet/>

「温暖化防止・ストリート」8号
2004年7月1日発行（隔月1日発行）
編集・DTP：岡塚子・豊田陽介・中野大

京都事務所（本部）
〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上る高倉ビル305
TEL：075-254-1011 FAX：075-254-1012
E-mail：kikonet@jca.apc.org

東京事務所
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウツドフィールド2F
TEL：03-3263-9210 FAX：03-3263-9463
E-mail：kikotko@jca.apc.org

紙100%の再生紙に大豆インクを使用し、電力発電による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座：00940-6-79694（加入者名：気候ネットワーク）
銀行振込口座：東京三菱銀行 京都支店 普通口座 1370852（気候ネットワーク）